

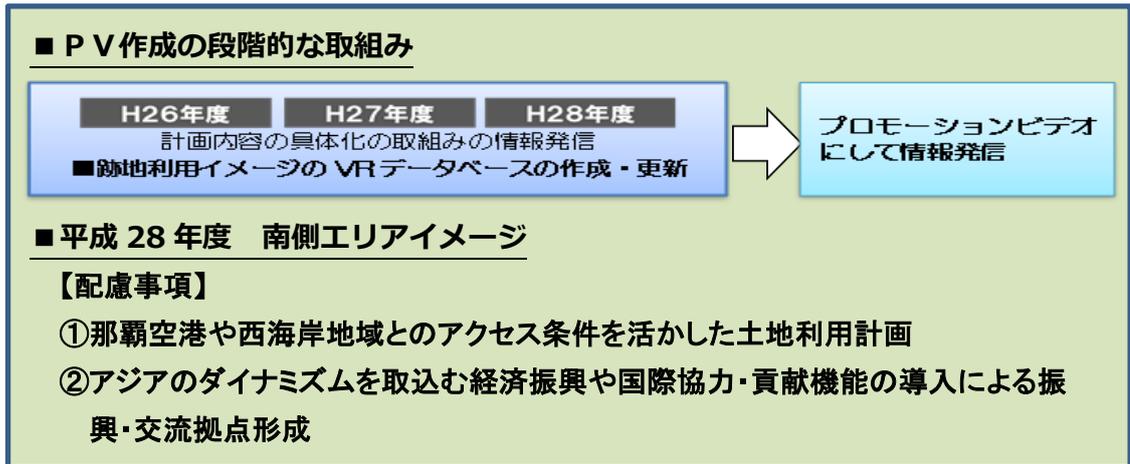
第IV章 合意形成や参画の促進に向けた取組み

第IV章 合意形成や参画の促進に向けた取り組み

1. VRを活用した普天間飛行場跡地利用における将来イメージの制作

(1) PV（プロモーションビデオ）の制作の意義と目的

普天間飛行場跡地利用における将来イメージの検討内容をプロモーションビデオとして作成し、地権者、市民、県民に向けて情報発信し、跡地利用の気運醸成ツールとして活用するとともに意見聴取ツールとしても活用することを目的とする。



図IV-1 PV作成の流れ

(2) PVの活用方法

PVは多くの地権者、市民、県民へ情報発信することが重要と考え、地元の字ごとの郷友会、地主会、普天間飛行場の跡地利用を考える若手の会、ねたてのまちベースミーティングなど積極的に活動されている団体の会合等で見ていただく機会を設けて意見を聴取する。また、県のホームページ内の動画チャンネルに格納することで、さらに広く地権者、市民、県民のみなさんに見ていただくとともに、計画案づくりに関心を持ってもらえるようにする。

平成26年度は、主に中央エリアをイメージして「VR編 Vol. 1」を制作、平成27年度は、主に北側エリアをイメージして「VR編 Vol. 2」を制作、本年度は、主に南側エリアをイメージする「VR編 Vol. 3」を制作し、Vol. 1～3を合わせて、普天間飛行場の跡地利用計画の全体像をイメージできるようにしている。

■ P V制作の全体像



図IV-2 P V作成の全体像

(3) VR（バーチャルリアリティ）の作成

1) VR作成の意義と目的

① 意義と目的

跡地利用の全体的なレビュー、県民、地権者、関係機関等とのイメージ共有並びに意見集約、行政協議や各種プレゼンテーションなど、本計画の具体化を効率的・継続的に支援することを目的とし、跡地利用計画のまちづくり将来イメージを中心とした汎用三次元デジタル空間である「多機能バーチャルリアリティ（VR）」コンテンツを制作する。

② VR活用方法

柔軟に更新できるVRの特徴をふまえ、普天間飛行場跡地利用計画においてのVR活用方法を以下に整理する。

- ・プロジェクト関係者間でのイメージ共有
- ・市民や地権者との合意形成
- ・周辺市街地と連携した地域景観のシミュレーション
- ・プロジェクトにおける効果的な運用・計画上のマネジメントに活用

③ 本調査でのねらい

本調査におけるVR制作のねらいは以下のとおりである。

- ・「中間取りまとめ」の配置方針イメージの可視化すること
- ・VRを活用したプロモーションビデオ（PV）を作成すること
- ・計画内容の具体化に向けた議論のたたき台とすること

④ 本調査での留意事項

本調査におけるVR制作に係る留意事項は以下のとおりである。

- ・関係部局検討等の結果反映までには時間を要することから、「中間取りまとめ」から、骨格を想定し、たたき台を作成する。
- ・提案内容が柔軟かつ様々な可能性があることを示すため、想定された街の骨格を基に自然環境や建物の空間イメージを複数案作成する。
- ・「緑の中のまちづくり」や「沖縄らしさ」等の表現についての議論のベースとする。

2) 平成 28 年度の詳細 V R 制作の考え方

① V R の作成の考え方

平成 28 年度の V R 制作範囲は南側エリアを中心とした全体コンセプト、基盤整備、都市拠点ゾーン、振興拠点ゾーン、居住ゾーン等の土地利用を対象に、それぞれの項目について整備イメージの検討を行った結果に基づき、南側エリアの V R 作成に向けた考え方について、具体的に整理した。

また、制作にあたる留意点は、以下のとおりである。

- ・ 県民、市民や地権者に土地の活用や生活のイメージが伝わるよう作成
 - ・ 県民、市民に向けた住宅のイメージや文化財・自然環境の保全・活用イメージが伝わるよう作成
 - ・ 事業のリアリティがあるよう、ある程度夢と現実のバランスに配慮しながら作成
- * なお、作成上、広域道路や土地利用計画をある程度想定するが、現時点でのアウトプットとしては、部分イメージとして限定的に活用

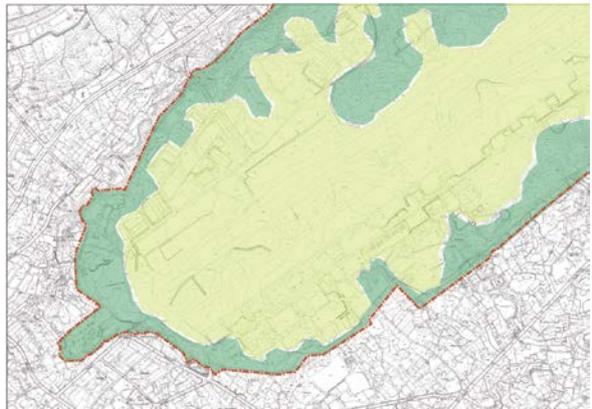


図IV-3 平成 28 年度 V R 制作範囲

②エリアにおけるまちづくりの考え方

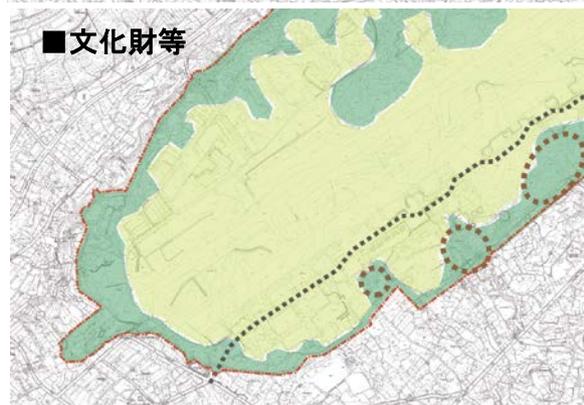
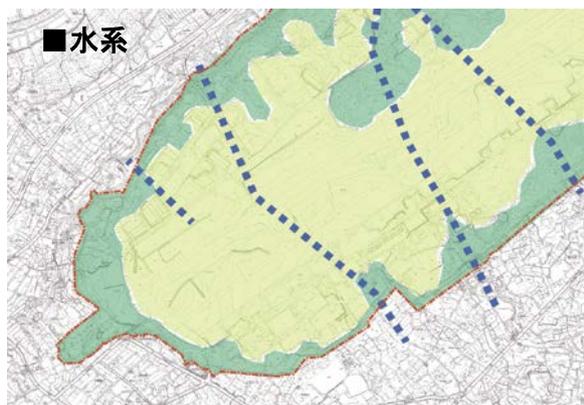
i) 現況地形、植生の保全

- ・ 地区外周部における海岸段丘、平地林等の地形及び樹林地等の現況植生を原則として保全
- ・ 森川公園、佐真下公園との連担部については、特に樹林地の連続性やボリュームに配慮
- ・ 滑走路及び施設敷地等で利用されている平坦部を活用し、周辺環境や立地に応じて土地利用



ii) 環境づくりに資する保全・再生要素の反映

- ・ 鍾乳洞等、地下構造の保全や大山エリアの湧水の流量確保となる水源の涵養を行うため、地下水脈が想定される位置を中心に緑地帯「水路緑道」を整備
- ・ 上記により、緑が存しない現滑走路上に南北の樹林地を結節する緑のネットワークを形成するほか、沿道には緑地担保型の土地利用を配置し、地域全体としての緑量を確保
- ・ 宜野湾古集落の宜野湾メヌカー古湧泉等、文化財の残存が想定されるエリアを公園及び沖縄ならではの集落形成作法を取り入れた住宅地等により再生
- ・ 歴史環境軸である並松街道を再生し、にぎわいある沿道土地利用を配置するほか、公園等によりイベント等に活用される馬場広場を再生



iii) 導入機能を踏まえた将来土地利用の想定

- ・那覇国港第2滑走路・西海岸道路の整備、沖縄アジア経済戦略構想、国際医療拠点構想等による新たな視点⇒国内外、特にアジアとの経済的な交流強化を念頭に必要な導入機能を想定
- ・上記に加え「中間取りまとめ」による、振興拠点ゾーン、都市拠点ゾーン、居住ゾーンの配置及び区分を踏襲するほか、当地区の開発理念（万国津梁、シマの基層）を踏まえ、下記のゾーンを設定

万国津梁

1) 振興拠点ゾーン

①研究開発ゾーン

- ・「21世紀ビジョン」、「広域構想」、「沖縄県アジア経済戦略構想」、西普天間住宅地区跡地における「国際医療拠点」構想等を踏まえ、主に琉球大学医学部との連携による製薬・医療機器等のライフサイエンス分野を中心に、国際交流や沖縄振興に資する産業分野に係る官民の研究所を配置
- ・西海岸のオーシャンビューのロケーションを活かした研修所のほか、地震や津波リスクを踏まえた防災安全性や国内外との大容量通信網等を活用し、データセンター等のバックオフィスを想定

②国際交流ゾーン

- ・大規模公園近接部においては、こうした都市機能を支援し、国際交流等を促進する国際会議場を配置するほか、西海岸地域における将来のリゾートシフトによる移設も視野に、来街者の呼び込みや交流を促進するためのスポーツや集客イベント等に活用する多目的ドーム・アリーナを配置
- ・西海岸のオーシャンビューのロケーションを活かし、ビジネスユースにも対応するホテルを配置

(仮)普天間公園

2) 都市拠点ゾーン

①エントランスゾーン

- ・地区南西端には地区のエントランス部にふさわしい特徴的なゲート及び建物を配置

②市民文化・交流ゾーン

- ・市役所近接部には市民のニーズに対応した市民文化会館（イベントホール）を配置

③ビジネス・研究開発支援ゾーン

- ・振興拠点ゾーンの研究機能と居住ゾーンの高等学術機能を連携する産官学連携施設やインキュベーター施設を配置
- ・研究機能を支える業務オフィス、レンタルラボ、ビジネスユースのホテル等を配置

シマの基層

3) 居住ゾーン

①歴史的景観再生ゾーン

- ・並松街道沿道には沿道景観を形成し、賑わいを創出する低層の店舗付き住宅等を配置
- ・宜野湾、佐真下等の集落地権者の受け皿となる戸建住宅地（伝統的集落形成作法等の導入含む）を公園等により保全する文化財エリアを中心に配置

②地域コミュニティ再生ゾーン

- ・上記の周辺部に地権者等の需要や意向に対応したコミュニティ創出型の戸建住宅地を配置
- ・都市拠点ゾーンとのフリンジ部や幹線道路沿道に中層の集合住宅ゾーンを配置

③高等教育ゾーン

- ・振興拠点ゾーンでの研究機能を補完し、「市総合計画」等で想定される高等教育施設等の集積を具現化するため、国内外の大学、大学院等の高等教育・学術研究機関を誘致するほか、地域のニーズに対応する高等学校、中学校等の教育施設を配置

iv) TOD を具現化する交通インフラの整備

- ・ 鉄軌道、中部縦貫道路、宜野湾横断道路等、広域交通インフラの導入空間を確保
- ・ 地区周辺の交通利便性を高める、国道 58 号と国道 330 号を結節するラダー方向の行き止まり幹線道路との接続
- ・ 西海岸リゾートエリアとの連携を促進するため新たな公共交通システム（LRT 等）を導入

③イメージVRの作成について

■振興拠点ゾーン



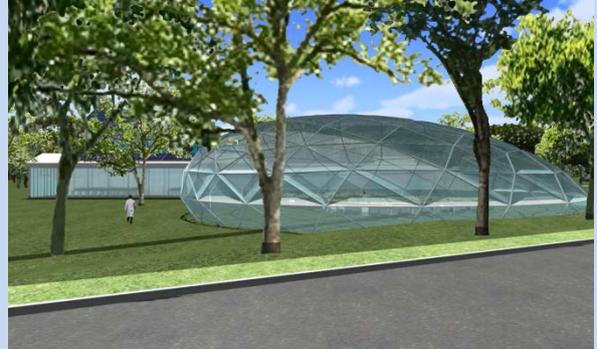
研究施設イメージ



研究施設俯瞰イメージ



モニュメントイメージ



研究施設イメージ

■都市拠点ゾーン



文化ホールイメージ



文化ホールイメージ



LRT 導入イメージ



ホテルからの西海岸眺望イメージ

■居住ゾーン



戸建て住宅イメージ



戸建て住宅イメージ



馬場の復元イメージ



メヌカー(ウプガー)復元イメージ



地下の水の道に沿った緑道イメージ

図IV-4 VRを活用した普天間飛行場跡地利用における南側エリアの将来イメージ(案)

(4) PVの制作

1) 平成28年度のプロモーションビデオ(PV)制作の取組について

本年度は、沖縄の地理的な優位性や国際交流・経済振興などを表現することや沖縄の将来を担う若者に夢を与えるようなイメージを作成することに留意し、第1回有識者検討会議における意見のほか、有識者や関係課等から意見聴取する場を設け、PV制作に取り組んだ。

平成28年度の計画内容の具体化に向けた取組み

(情報発信に関連するもの)

PV作成にあたっての留意点

- ・沖縄の地理的な優位性や国際交流・経済振興などを表現。
- ・沖縄の将来を担う若者に夢を与えるようなイメージを作成。

第1回有識者検討会議での主な意見

- ① 国際的なアピールをしていかなければいけないので、世界に発信するものを意識してほしい。
- ② 緑地の持つ意味や地下水涵養のあり方、自然エネルギーの活用などを取り入れてほしい。
- ③ 並松街道と住宅地、西側の緑、新たに導入される産業が公園や幹線道路とどう関係するか。
- ④ 若者向けの情報発信の仕方(SNSの利用等)も考えてもらいたい。

普天間飛行場跡地利用計画のPV制作プロジェクト

沖縄振興がテーマとなる南側エリアのイメージPVの制作に向け、沖縄の未来を見据え、沖縄振興へ向けた有効な意見を集約して制作するため、有識者や関係課から意見を聴きながら進める。

有識者

- ・大規模公園等コンセプトの反映
- ・普遍的な資源を活用したまちづくりの反映
- ・沖縄の産業振興の反映

関係課

- ・企画調整課(21世紀ビジョン)
- ・アジア経済戦略課(アジア経済戦略構想)
- ・交流推進課(世界のウチナーンチュ大会)
- ・ものづくり振興課(国際医療拠点)
- ・交通政策課(那覇空港第2滑走路)
- ・道路街路課(広域幹線道路)

地権者・市民等

- ・宜野湾市懇話会

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
<p>〈中央エリアイメージ〉</p> <p>【配慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境(沖縄の風土) ・歴史・文化(沖縄らしさ) ・国際交流・産業振興(沖縄振興の舞台) ・自然エネルギーの活用(環境配慮型都市) 	<p>〈北側エリアイメージ〉</p> <p>【配慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北側エリアに多く残されている歴史・文化資源の保全・活用 ・隣接する西普天間住宅地区や周辺市街地の開発と連携 	<p>〈南側エリアイメージ〉</p> <p>【配慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・那覇空港や西海岸地域とのアクセス条件を活かした土地利用計画 ・アジアのダイナミズムを取込む経済振興や国際協力・貢献機能の導入による振興・交流拠点形成 	<p>〈全体エリアの更新〉</p> <p>【配慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各エリアを総括し、世界に誇れる環境づくりと交流、共生、平和に繋がる跡地利用の全体イメージ

2) PVの流れ

県民・市民・地権者の合意形成・意向醸成や県外・海外への情報発信にも活用すること、また、沖縄の将来を担う若者に夢を与えられることをふまえ、PVの流れを検討した。

0. プロローグ（これまでの取組内容の紹介）

- ・駐留軍用地跡地利用の必要性(沖縄の新たな発展・県土構造の再編等)
- ・沖縄21世紀ビジョンを踏まえた沖縄の未来を表現
(那覇空港第二滑走路、広域的に結ぶ骨格道路や体系的な幹線道路網の整備等)
- ・普天間飛行場跡地利用の過年度PVの紹介
(中央エリア:世界に誇れる環境づくりを目指した4つのコンセプトを表現、北側エリア:コミュニティの再生・創生を3つの視点で表現)
- ・今年度のPV特徴を説明(アクセス条件を活かした土地利用、沖縄振興・国際交流の舞台となる拠点形成イメージを表現)

1. 風土に根ざした琉球の文化(シマの基層)を踏まえた土地利用計画

- ・跡地の特性である「水」、「地形」、「緑」、「歴史」などを活用した土地利用
- ・まちま〜いを通して得られた歴史・文化資源の知見の活用
- ・原風景模型制作から得られた知見と跡地利用計画への反映
- ・普遍的な歴史・文化資源を活かす大規模公園を中心とした優れた住環境のまちの実現を目指す(住まう人々・世界中から集まる人々が憩い交流する場)

2. 公園都市(沖縄振興の舞台)

- ・沖縄中南部を南北と東西につなぐ道路、新たな公共交通のクロスポイントに大きな公園ができ、この公園を中心とした快適なまち
- ・世界の人々を魅了する環境づくりによる研究開発、産業振興の誘導
- ・アジアのダイナミズムを取込み世界の人々を魅了する沖縄振興の舞台
- ・公園都市を目指したまちづくりが産業振興、沖縄振興へつながり、新たな国際交流を生む

3. エピローグ

- ・新たな時代における万国津梁の実現(琉球の先人の歴史、平和の架け橋として世界から来訪者を呼び込む国際交流の拠点等)
- ・世界で活躍しているウチナーンチュネットワークの継承発展へ
- ・普天間未来予想図は、未来のまちづくりをイメージしたものであり、地権者、市民、県民の声でさらに夢が膨らむことを表現
- ・これらの未来のまちづくりのイメージをもとに跡地利用の気運醸成を図る
- ・今後の紹介(これまでの意見や検討内容を反映させ、計画内容を随時更新)

3) 今年度のPV制作・演出のポイント

- ・VR画像だけではなく、参考資料画像(イメージカット含む)を交え、地権者・市民・県民がイメージしやすいものとして、未来のまちづくりを想起
- ・有識者等の意見を反映させながら、PVの更なる期待度を高める

(5) PV制作プロジェクト（有識者等ヒアリング）の実施

沖縄振興がテーマとなる南側エリアのイメージPVの制作に向け、沖縄の未来を見据え、沖縄振興へ向けた有効な意見を集約して制作するため、有識者等から意見聴取を実施し、様々な知見をふまえて制作した。

1) PV制作プロジェクトの実施概要

■意見聴取先

（PV制作全体会議有識者）

- ・池田 孝之 琉球大学名誉教授
- ・上江洲 純子 沖縄国際大学法学部准教授

（PV有識者ヒアリング）

- ・中本 清 沖縄県建築設計サポートセンター理事長
- ・小野 尋子 琉球大学工学部准教授
- ・嘉手苺 孝夫 沖縄観光コンベンションビューロー専務理事
- ・安里 進 沖縄県芸術大学附属研究所客員研究員

（地元懇話会）

- ・地主会
- ・若手の会
- ・ねたてのまちベースミーティング

■実施スケジュール

- ・第1回PV制作全体会議 : 平成29年2月1日、3日
- ・第2回PV制作全体会議 : 平成29年2月20日
- ・第3回PV制作全体会議 : 平成29年3月15日
- ・PV有識者ヒアリング : 平成29年3月14日、17日、23日、30日
- ・第4回懇話会の場を借りて意見聴取 : 平成29年3月8日

2) 主な意見

① 第1回PV制作全体会議

■PV構成について

- ・沖縄21世紀ビジョンを踏まえた沖縄の未来をプロローグへ。次いで南側エリアの紹介、シマの基層からまちの価値を高める公園、公園都市が研究都市となり、そこにさまざまな産業や人が集まり交流が起こり、琉球王国の時代の万国津梁の理念につながり、アジア経済戦略構想を踏まえた沖縄の未来のエピローグへと流れるほうがよい。

■シマの基層の表現について

- ・シマの基層は普遍的な要素でありわかりやすく説明する必要がある、これまで議論してきた内容はしっかりと反映させる必要がある。

■万国津梁・国際交流の表現について

- ・研究施設は緑の中にあり、職住近接や衣食住がそろっているイメージと考えられるので俯瞰では素晴らしさが見えてこない、アイレベルにすべき。また、交流を見せやすいのは公園である。

■研究施設の表現について

- ・人の交流だけでなく、産業や研究を含めた交流の場になる。キーワードはリゾート、アートである。また、緑と水に囲まれオープンな空間で働いているフランスのソフィアアンティポリスのようなイメージがよい。

②第2回PV制作全体会議

■プロローグについて

- ・県土構造再編には、嘉手納以南の駐留軍返還の内容のみでなく西海岸や東海岸の状況など幅広い話も盛り込んだ方がよく、経済効果については想定される普天間の経済効果を入れたほうがよい。

■シマの基層の表現について

- ・今まで議論を重ねており具体的に分かりやすく説明し、水・緑・文化財のそれぞれが重なっている図で示したほうがよい。水の道は断面図で表現できるとよい。

■南側エリアの特徴の表現について

- ・シマの基層から成る大規模公園で生み出される産業として、リゾートのような環境の中での研究施設が考えられ、それがITやAIなどの産業とつながり、さまざまな商品が生み出され、モノだけでなく人も集まり、MICEやコンベンションの機能を有することになる。

■公園の表現について

- ・公園の魅力や価値がみえづらいので、公園内から見た研究施設や住宅地、公園が人々の交流の場となり、さらには地理的に交通のクロスポイントとして便利であることがわかるとよい。緑のみでは魅力が伝わらないので工夫が必要。

■万国津梁の表現について

- ・研究を契機とした交流が国際性を持ち、それがかつて琉球王国が行っていた万国津梁の理念につながるという内容がエピローグにあるとよい。

③第4回懇話会（※地主会、若手の会、NBMの方々にPVの意見を伺った）

■シマの基層の表現について

- ・南側エリアは緑が多いのは分かるが、逆に緑ばかり目立ち土地利用のイメージが湧かない。
- ・シマの基層のところ、鳥や虫など生きものが出てくるとイメージがわいてよいのではないか。

■産業振興の表現について

- ・公園の周りに研究施設が集まるイメージが伝わらない。空港や航空機産業が出てくるが、空港と跡地がどうつながるかイメージできない。
- ・中央エリア、北側エリアでは鉄軌道や幹線道路のことに触れていたが、今回の南側エリアでもあった方がよい。南側エリアのどのあたりに道路が入ってくるかがみたい。
- ・シマの基層は伝わるが、沖縄振興につながるイメージがしにくい。道路、鉄軌道のクロスポイントになることで産業振興につながるという方が分かりやすい。
- ・拠点のイメージが何を持っての拠点なのか示した方がよい。

■その他

- ・VRで人が入ると建物の大きさや緑との距離感とかがイメージできるようになる。
- ・PVは地権者へ単独で上映する機会はほとんどなく他の資料説明と同時に行うので、全体は長すぎない方がよい。

④第3回PV制作全体会議

■産業振興の表現について

- ・学会のシンポジウムやフォーラム等の堅い写真も挿入した方がよい。また、MICEのように大規模な展示場で商談しているようなシーンを入れることで、研究やビジネスで様々な人が集まっている様子が見える。

■交流の表現について

- ・近未来的な建物に人が集まるシーンがあるが何の建物かわからない。
- ・ウチナーンチュ大会の写真ばかりでなく、働いている人、学んでいる人が集まっている姿も入れた方がよい。

■公園の価値の表現について

- ・公園がまち全体の価値を高め、周辺地域とつながる役割を担うので説明は工夫したほうがよい。

■エピローグの万国津梁の表現について

- ・エンディングの前に入っているためインパクトが弱い。最後の締めを持って行って跡地から地球規模的な広がり終わるのがよい。